



# 白

糠の『夏の涼しさ』は、北海道の市町村の中でも一番と言っているのではないのでしょうか。特に海沿いは「今日は暑いなあ」と感じるのが、去年はわずか数日あったくらいだと記憶しています。しかも「やっと夏らしくなってきたな」と思ったら、その数日後には涼しくなり、そのまま秋へと突入していきまますよね。「え？もしかして夏ってもう終わり？」白糠町に移住して2年、夏は2回ともそんなふうに思いました。

## 「恋問海岸、夏のチョウと花」

私は、虫などの小さな生き物たちが活発になる夏がとても好きです。小さな体からでも、これでもかと言うほど発せられる『命の力強さ』を最も感じる事ができるからです。だから白糠町へ移住するにあたって、大好きな夏がとても短いことが少し懸念材料でした。でもいざ住んでみると、白糠町の夏ならではの魅力がありました。夏の暑い日（と言っても気温25〜28度くらいですが）、恋問海岸へ行ってみるとチョウが乱舞して



花の蜜を求めて飛ぶ「ミヤマカラスアゲハ」



恋問海岸に咲く「エソスカシユリ」

トウキョウトガリネズミくん  
チュ〜

# トガリネズミラヴァー

六田晴洋の

# 私たちの ご近所さん



VOL. 2

## 「短い夏にきらめく命」

いたのです。「今までどこにいたの？」と思うほどのたくさんチョウたち。雄は雌を追いかけ交尾をし、雌は葉に卵を産み付けていました。まるでお祭り騒ぎです。それまでたまっていたものがどつとあふれ出たかのようにチョウたちが躍動していました。虫は変温動物といって、気温の変化に伴って体温が変わる性質を持っています。人間のように体温を自力で調節する能力がないので、活発に動

けるほど体温を上げられるかは気温次第です。だからやつと訪れた暑い日に、チョウはその命を一気に燃やすのでしよう。余力を残しても、次いつ暑い日が来るかわかりません。その前に鳥に食べられたり、寿命が尽きてしまう可能性だってあります。出し惜しみせず、その一瞬を懸命に生きるのです。

虫に花粉を運んでもらって命をつなぐ植物だって、チョウが活発に動く日を心待ちにしているはず。恋問海岸を鮮やかなオレンジ色で彩るエソスカシユリもそんな植物のひとつ。白糠町に暮らす虫や植物にとつて、暑い日は本当に貴重な一日なのです。命がボワッと燃え盛る白糠の夏。私はますますこの季節が好きになりました。

### PROFILE 六田晴洋

ろくたはるひろ 1986年生まれ。2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。  
E-mail rokuta@six-h.com